

14. 当院における造影剤副作用対策シミュレーションの実践

深谷赤十字病院 ○柏瀬 義倫¹⁾

齋藤 幸夫¹⁾、清水 文孝¹⁾、中里 佳織²⁾

1) 診療放射線技師、 2) 看護師

【目的】

昨年、当院で造影 CT 検査中に患者が心停止を起こす事例が発生した。その経験から、造影 CT 検査中に発生する様々な副作用に対する対処のシミュレーションを行い、実際の副作用発生時に適切な処置ができるように訓練するとともに、副作用発生時の連絡体制や役割を再確認した。そこで当院の副作用に対する対処のシミュレーションについて報告する。

【方法】

技師役、患者役、看護師、医師に分かれる。昨年 1 年間に当院で発生した副作用とその他発生報告例のある副作用が書いてあるカードを作成し、患者役がカードを持つ。実際の業務を想定した中で、患者役がカードを無作為に提示し、そこに書かれている副作用が発現したと仮定する。技師役は看護師の指示や当院の副作用発生時マニュアルに基づき必要に応じた行動をする。

【結果】

シミュレーションを行った結果、副作用が発生した際の適切な行動や連絡体制、技師としての役割を再確認することができ、看護師との連携も密になった。また、実際に行った技師の意見として、やってみると頭では解っていても、気持ちが焦ってしまいなかなか行動にうつす事ができなかったという意見や、救急カートの中の薬品や物品の種類や位置を確認することができて良かったという意見もみられた。

【考察】

副作用発生時の訓練の経験を積むことで実際に起きた時の迅速な対応が期待できる。そのために、今回行ったシミュレーションは定期的に行うことが望ましい。また今後の課題として、今回は技師役が 1 人の場合だったが、当院では CT 業務に技師が 2 人ないし 3 人配属されているため、複数の技師がいるときのシミュレーションや、当直帯の人が少ないときのシミュレーションなど、様々なシチュエーションを考えて実践して行きたい。